

問1 関東平野の地形的な特徴とその土地利用について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 和歌山公立入試 類似)

1. 火山灰が堆積して形成された水はけの良い台地が広がっており、古くから畑作や平地林として利用されてきた。
2. 利根川などの河川沿いの低地には火山灰が厚く堆積しているため、水持ちが悪く稲作には全く適していない。
3. 関東平野を構成する赤土の層は、かつて海底であった場所が隆起してできたものであり、塩分を多く含んでいる。
4. 九州南部に見られるシラス台地と同様の構造を持ち、大規模な畜産を主目的とした土地利用が全域でなされている。

問2 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県を比較した統計資料において、東京都の「昼夜間人口比率」が118.1%であるのに対し、周辺3県はいずれも100%を下回っています。この数値の差が示している地域間の人口移動の実態について述べたものとして、正しいものはどれですか。 (2017年 徳島公立入試 類似)

1. 東京都は周辺県から通勤・通学者の流入がある一方で、周辺3県は東京都などへ流出する人口が多い。
2. 周辺3県は東京都よりも地価が高いため、夜間に東京都へ戻って就寝する人が多くなっている。
3. 東京都は夜間人口が昼間人口よりも多いため、周辺3県に比べて夜間の電力消費量が極めて多い。
4. 周辺3県には大学や事業所が東京都よりも集中しているため、昼間に周辺3県へ向かう人が東京都よりも多い。

問3 日本の工業の変遷において、1960年から2014年にかけて北関東工業地域が製造品出荷額の割合を飛躍的に高めた主な要因として、最も適切なものはどれか。 (2018年 高知公立入試 類似)

1. 高速道路網の整備により、内陸部への工場の進出が容易になったため
2. 掘込港湾の建設が進み、大規模な臨海型コンビナートが形成されたため
3. 周辺に広大な炭田が存在し、安価なエネルギー資源を確保できたため
4. 関東大震災後に、過密化した都心の工場が一斉に移転してきたため

問4 日本の河川について述べた次の文のうち、利根川の特徴を正しく説明しているものはどれですか。統計上の数値に基づき、適切なものを選びなさい。 (2019年 岩手県公立入試 類似)

1. 日本で最も流域面積が広く、その面積は約16,840平方キロメートルに達し、関東平野を流れている。
2. 日本で最も長い河川であり、その長さは約367キロメートルに及び、長野県から新潟県へと流れている。
3. 北海道で最も流域面積が広く、石狩平野を流れて日本海に注ぐ日本で2番目に流域面積が広い河川である。
4. 東北地方で最も長い河川であり、岩手県から宮城県へと流れ、太平洋に注いでいる。

問5 千葉県香取市の佐原地区について述べた次の文のうち、この地域の景観や土地利用の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。なお、この地域の地形図では、鉄道駅の北側には水田が広がり、小野川沿いには古い町並みや史跡を示す記号が密集しています。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)

1. 利根川の支流である小野川沿いに、江戸時代の風情を残す歴史的建造物や伊能忠敬旧宅などの史跡が保存されている。
2. 佐原駅の北側を中心に、大規模な工場が立ち並び工業地帯が形成されており、地域の経済を支えている。
3. 小野川から離れた丘陵地帯に、近代的な高層マンションが立ち並びニュータウンが整備されている。
4. 駅周辺の市街地を再開発し、歴史的な遺構をすべて撤去して最新の商業ビルを集積させている。

問6 1980年と比較して2020年の人口統計において、人口が増加している都道府県の数が増加している都道府県の数よりも多く、かつ人口100万人以上の都市が域内に二つ以上存在している日本の地方の組み合わせとして、正しいものを次のうちから選びなさい。 (2022年 福岡県公立入試 類似)

1. 関東地方と近畿地方
2. 東北地方と中国地方
3. 中部地方と四国地方
4. 九州地方と北海道

問7 2015年の統計において、東京都の住宅地の平均地価は1平方メートルあたり323.8千円と、周辺の埼玉県、千葉県、神奈川県に比べて著しく高い数値を示しています。このような状況下で、東京都の「昼間人口」が「夜間人口(常住人口)」を大きく上回り、昼夜間人口比率が118.1%に達している主な理由として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 徳島公立入試 類似)

1. 住宅地の平均地価が高い東京都を避け、住居を周辺県に求めながら、都内へ通勤・通学する人が多いため。
2. 東京都内の大学や事業所が次々と周辺県へ移転したことで、周辺県から都内へ買い出しに来る人が増えたため。
3. 周辺県の住宅地の平均地価が東京都を上回ったため、都内に住居を構えて周辺県へ通勤・通学する人が増えたため。
4. 東京都の夜間人口が急激に増加したことにより、相対的に昼間の活動人口が少なく見えるようになったため。

問8 群馬県の嬬恋村などは標高1000m付近の高地に位置しており、夏場でも平均気温が20度を下回る特徴があります。この気候条件を活かし、夏から秋にかけてキャベツなどを栽培して大都市へ出荷する農業を何と呼びますか。 (2026年 和歌山公立入試 類似)

1. 高原野菜の栽培
2. 促成栽培
3. 近郊農業
4. 稲作単作経営

答え合わせ・解説

問1	答え 1 火山灰が堆積して形成された水はけの良い台地が広がっており、古くから畑作や平地林として利用されてきた。	関東平野は、利根川などの河川沿いに見られる「低地」と、火山灰が降り積もってきた「台地（関東ローム層）」に分けられます。関東ロームは水はけが良すぎるため、かつては水利の確保が難しく水田には適しませんでした。そのため、台地の上では麦や野菜などの畑作が行われたり、薪や肥料を得るための平地林（雑木林）として利用されたりしてきた歴史があります。
問2	答え 1 東京都は周辺県から通勤・通学者の流入がある一方で、周辺3県は東京都などへ流出する人口の方が多い。	昼夜間人口比率とは、夜間人口（その場所に住んでいる人）に対する昼間人口（昼間にその場所にいる人）の割合のことです。この比率が100%を超える東京都は、外部から多くの人が入ってくる「流入超過」の状態にあります。一方で、100%を下回る周辺の3県は、その県に住んでいる人が仕事や学校のために東京都などの外へ出ていく「流出超過」の状態であることを示しています。これは東京都の住宅地の平均地価が高いことが一因となり、周辺県が「ベッドタウン」としての役割を担っていることを表しています。
問3	答え 1 高速道路網の整備により、内陸部への工場の進出が容易になったため	北関東工業地域は、内陸部に位置しながらも高速道路網を利用した効率的な物流が可能になったことで、自動車工業や電気機械工業などの加工組立型の産業が盛んになりました。地価の安さや広い用地を求めて、都心や沿岸部から工場が移転・新設されたことが発展の背景にあります。
問4	答え 1 日本で最も流域面積が広く、その面積は約16,840平方キロメートルに達し、関東平野を流れている。	利根川は「坂東太郎」の異名を持ち、流域面積が日本で最も広い河川です。その流域は群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・長野の6都県という広大な範囲にまたがっており、首都圏の生活や産業を支える重要な水資源となっています。日本で最も長い河川は信濃川、2番目に流域面積が広い河川は石狩川です。
問5	答え 1 利根川の支流である小野川沿いに、江戸時代の風情を残す歴史的建造物や伊能忠敬旧宅などの史跡が保存されている。	香取市佐原は、利根川水運の中継地として栄えた歴史を持ち、現在も小野川沿いには当時の面影を残す蔵造りの商家などの歴史的建造物が立ち並んでいます。この地区は国の「重要伝統的建造物群保存地区」にも選定されており、日本地図を作成したことで知られる伊能忠敬の旧宅もこの川沿いに位置しています。地形図上でも、駅北側の水田地帯とは対照的に、川沿いに建物や史跡の記号が密集している様子が読み取れます。
問6	答え 1 関東地方と近畿地方	日本の人口分布は都市部への集中が顕著であり、1980年から2020年の推移を見ても、東京を中心とする関東地方や、大阪・京都・兵庫などを擁する近畿地方では、他の地方に比べて人口増加を維持している府県が多く存在します。これらの地域には、横浜市や川崎市、大阪市や京都市といった人口100万人を超える政令指定都市が複数集まっていることが特徴です。
問7	答え 1 住宅地の平均地価が高い東京都を避け、住居を周辺県に求めながら、都内へ通勤・通学する人が多いため。	東京都は日本の政治・経済・文化の中心地であり、多くの企業や学校が集中しています。しかし、資料にある通り東京都の住宅地の平均地価は周辺県に比べて非常に高いため、人々は地価の比較的安い埼玉県や千葉県、神奈川県などの周辺県に住居を構える傾向があります。その結果、平日の昼間には周辺県から東京都へ多くの人が通勤・通学のために移動し、昼間人口が夜間人口（常住人口）を上回る「昼夜間人口比率」が高い状態になります。
問8	答え 1 高原野菜の栽培	孺恋村は標高が高いため、平地では気温が高くなりすぎる夏の間も「涼しい気候」を保つことができます。この自然環境を利用して、他の地域での生産が少なくなる夏から秋に野菜を供給する仕組みは、高地の特性を活かした高原野菜の栽培として知られています。